

## 澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成26年12月15日（月）17：00～17：15

場所：合同庁舎8号館

### 【冒頭発言】

週を跨いでしまったが、現地時間12月12日のワシントンでの首席交渉官会合最終日の様子をご説明する。

12日は、朝9時に始まり、午前中で終わった。最初は「繊維」を議題とした。繊維について、正確にいうとチャプターとして独立はしていないが、作業部会は個別に行われている。主として、繊維に関する原産地規則の議論がなされている。ご存知かと思うが、繊維製品の原産地を考える際に、糸とか生地から製造されたものでないかだめだという、「ヤーン・フォワード」ルールというもの。これを適用する代わりに、糸や生地がTPPの域内で調達できない場合には例外扱いにしましょうと、これを「ショート・サプライ」リストというものに載せましょうと、こういった議論が、去年日本が交渉に参加した頃から、延々となされている。何度かご説明しているかもしれないが、特定の2か国間のやりとりがメインで、各国の様子見という状況が暫く続いていたが、オタワ、ハノイ、キャンベラ、シドニーと毎回作業部会が開催されており、難航分野というわけではないものの、難航分野並に作業部会が開かれ、今回随分進展したのではないかと思う。このワシントンでというよりは、この間ずっと進展してきたということではないかと思う。「合意近し」という状況になっているかといえば微妙なところではあるが、この半年間で大きな進展が見られたということは間違いないと思う。

繊維の後に扱われたのは、「透明性」である。透明性については、内閣官房で作成したいわゆる21分野のなかに「制度的事項」というのがあり、今はこれがいくつかのチャプターに分かれている。「透明性・腐敗防止」というものが1つのチャプターとなっている。北京会合の際もご説明したと思うが、透明性・腐敗防止というチャプターは、チャプターの評価として北京会合の報告書では「作業中」になっていたと思う。腐敗防止についてはワシントン会合でも既に扱われたと思うが、こちらの方の進捗はやや遅れている、ということで「作業中」ということ。透明性の方については、もう論点はいくつかに絞られているのではないかと思う。透明性というのは、特に発展途上国などで、投資をしていたり、しようとしているときに、ある日突然何の前触れもなく厳しい規制ができる可能性があるとなると、予見可能性が低くなるということがあるので、そういった影響のある法律や規制を設ける際に透明性を確保しようというもの。我が国はあまり問題ないが、一定のルールを決めようということで議論がなされており、いくつかの論点に絞り込まれているという状況にある。ワシントンにおいては、その論点に関わる国が集まりずっと議論が行われ、最終日にその状況を聞いたということである。これは収束しつつあるということだと思う。

首席交渉官会合の最後に、ワシントンにいる間に終わらせようということになっていたいろいろな分野の論点があるわけだが、これに関する宿題について確認が行

われた。これで終わりというものもあれば、引き続きというものもある。引き続きとなったものを含めて、会合終了後に北京で作った作業計画のリストの改訂を行いましょうということで、後日、各国に共有されることとなると思う。

それから、今後のことについて、アメリカのメディアや一部我が国のメディアで憶測記事が書かれているが、12日最終日の全体会で次にいつ集まろうということが議論された事実はない。ただ、全体の雰囲気として、今回議論されていない分野もあるので、今回のような首席交渉官会合、作業部会とセットになった首席交渉官会合をどこかのタイミングでもう1回は開催しないと次のステップに行くのはなかなか難しいのではないかと、という思いは共有されているのではないかと思う。ただ、いつどこでということはまだ決まっていない。最近の傾向として、まずホスト国を決めて、そのホスト国がいろいろと調整するというパターンになっている。まだホスト国が決まっていないということなので、いつどこでということはこのからの調整になると思う。

以上が最終日の報告である。

#### 【質疑応答】

(記者) 作業計画の改訂について、当初、年内に終わらせようという課題があったと思うが。

(審議官) 終わったものもあれば、終わらなかったものもある。終わらなかったものを改訂することとなる。

(記者) 次に首席交渉官会合を開くとすると、閣僚会合の開催に繋げるための会合ということになるのか。

(審議官) 次の会合で議論してどうするかといったことになると思う。首席交渉官会合には主に2種類あり、閣僚会合が先に決まっていますその直前に準備のために首席交渉官が集まるというものと、去年のワシントン、ソルトレイク、今回のワシントンもそうだが、閣僚会合と連続させずに、独立して首席交渉官会合及び作業部会として行われるものがある。やはり、もう一度、後者のパターンの会合が開かれるのではないかと思う。

(記者) 必ずしも閣僚会合とセットというわけではないと。

(審議官) 閣僚会合とくっついている、というものではないと思う。

(記者) 次の首席交渉官会合の進展次第で、その次をどうするかが決まるということか。

(審議官) そうということではないか。今回の首席交渉官会合では知的財産が平場で議論されていない。

(記者) 日米協議の今後のスケジュールは決まっているか。

(審議官) 決まっていない。

(記者) 物品に関する日米協議で何か進んだものはあるか。

(審議官) 進んでないとは言わないが、ものすごく進んだという感じはしない。

(記者) 近くフローマン米国通商代表との協議が行われるといったこともないか。

(審議官) そういった予定はない。

(記者) 知的財産は非公式で協議がなされたとのことだが、どうであったのか。

(審議官) 全体会合を次にやる場合に備えて、非公式に、論点整理をバイで協議したり、少数国で協議したりといったことだったようだ。日本は全てに参加しているわけではないので、何度も言うように、全体像は分からない。

(記者) 日本の選挙について、何か関心はあったか。例えば、大臣が変わるのか、といった話はなかったか。

(審議官) 特にそういった話はなかった。

(記者) 物品市場アクセスについて、首席交渉官によるバイの協議が4か国と、大江首席交渉官代理によるバイの協議が5か国と行われたとのことと思うが、米国以外とのバイ協議の進展状況はどうか。

(審議官) 随分進んだ国もあれば、まだ厳しい国もある。

(以上)